

第7次松山市総合計画審議会での意見総括(案)

1. はじめに (※以下の要素を含む文章を作成)

- ①新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年延長後に策定される総合計画
- ②時代背景(人口減少・少子高齢化など)
- ③松山市が置かれた状況と今後(JR 松山駅・市駅前など大きな変化があるタイミング)
- ④第7次総合計画に求められるもの(総合計画の目的とコンセプトを踏まえて)
- ⑤まちづくりに求められる視点(挑戦する前向きな姿勢、ウェルビーイングなど)
- ⑥審議会としての願いや想い(総合計画や今後のまちづくり)

2. 総括的事項

- ①「夢を描ける」だけでなく、市民1人ひとりの「夢を実現できる」まちづくりであることが大切である。
- ②どのような対象をターゲットにして、まちの魅力を高めながら「住みたいまち」、「住み続けたいまち」にしていくのか明確にすることが大切である。
- ③松山市が「住みたいまち」、「住み続けたいまち」であるために、産業、観光、教育、防災など、様々な分野で、性別、障がいの有無、国籍などに関わらず市民が自分らしく活躍し、多様な個性を認め合う環境を整えることが大切である。
- ④松山市がどういう未来を目指し、将来都市像につながるキーワードやイメージが、計画の中でまちの魅力として市民に分かりやすく示されることが大切である。
- ⑤松山市の地域特性や現状、課題を捉え、計画の策定に生かすことが重要である。
- ⑥デジタル技術をはじめとした最新技術を、まちづくりにどう取り入れていくのかという視点が大切である。
- ⑦人口減少や環境問題などへの対応策に加え、その変化を踏まえた適応策についての観点を持ち、柔軟で、しなやかなまちづくりを進めていくことが大切である。
- ⑧中心部と郊外では意見や考えの違いがあるため、アンケートやワークショップなどから得られた多くの市民の声は、多様な地域特性を考慮し計画に反映することが大切である。
- ⑨時代の潮流を踏まえ、松山市が今後求められていることが基本構想の中で大きな方針として示されていること重要である。
- ⑩市民に分かりやすい言葉や文章の意図が伝わりやすい表現などを工夫することが大切である。
- ⑪松山市が仕事や子育てなど、誰もが安心して暮らせるまちであることを示すことが大切である。

3. まちづくりの理念について

- ①コロナ禍を経て、かつての地縁や血縁といったコミュニティの継続が困難になり、新たなコミュニティへの参加を模索している中、「つながり」をキーワードとしたことは評価でき、ポストコロナの中で新たにつながっていくための、取組に反映していくことが大切である。
- ②理念に掲げた「つながる力」のイメージや意図、効果など、市民に分かりやすく伝えるようにすることが重要である。
- ③市民にも市外の人に対しても、松山市の特徴や将来めざす姿を分かりやすく示すことが大切である。
- ④「人」「まち」「仕事」をキーワードとして、それらがつながっていくことで、理念で掲げた「幸せ」を実現されるイメージを分かりやすく伝えることが重要である。

4. 将来都市像について

- ①将来都市像の「SETOUCHIの交流拠点」が、松山市と世界とのつながりについて、市民に分かりやすく伝えることが重要である。
- ②松山市の独自性や瀬戸内地域の中でも他の都市と差別化できる将来都市像とすることが重要である。
- ③時代の変化に応じた新たな取組を進めていくことも重要だが、一方で、変わらずに残る松山の良さと調和させ、次代につなげていくことも大切である。
- ④「人、まち、仕事」をつなげ、その輪を広げていくため、実効性のある取組を具体的に進めていく計画にすることが大切である。

5. まちづくりの方向性について

全体

- ①将来都市像に掲げたSETOUCHIの交流拠点を目指すことを、「まちづくりの方向性」の中で市民にも伝わるよう表現することが大切である。
- ②キーワードの「つながる」について、つながることの良さやつながることがどのような力になるのか、市民にも意図が伝わるようにすることが大切である。
- ③項目全体を通して「人」「まち」「仕事」が繋がった状態を統一感のある文章で表現することが大切。

(1)「人」がつながる

全体

- ①年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、項目全体を通して、すべての人を包含する視点で「人」がつながること表現した文章にすることが大切である。
- ②人口減少の問題から来る深刻な課題は、人口流出や経済の衰退だけではなく、喪失した地域住民の誇りをいかに復活させ、地元愛や誇りをいかに育てていくかという視点が必要である。

個別

- ①こどもの学びでは、「環境教育」を「ESD(持続可能な開発のための教育)」として、広い意味で捉えることや、世界のこどもたちと一緒に学びながら、グローバルに活躍できるような教育の視点が大切である。また、複雑で多様化する社会を背景に、松山に居ながらにして、世界や大都市圏などとの情報格差を埋められる環境が整うことや、グローバルで活躍することに加え、松山とグローバル社会を切り離さないような表現にすることが大切である。
- ②自分が興味のある活動を楽しみ、好きなことに打ち込める環境が整っているだけでなく、能力をさらに伸ばす、育成していくという観点も大切である。
- ③四国の他都市と比べて若者の数が多いことから、集まって情報交換をするような民間とも協力した居場所づくりが必要である。
- ④若者の定着にとって、所得の向上だけでなく、学んだ技能を活かし、チャレンジできる環境があることも重要である。
- ⑤個人の成長や組織の活性化のためには、視野を広げ自らが所属する組織の垣根を越えて交流することが大切である。
- ⑥保育環境や子育て環境を充実させるため、未就学児から学童まで、切れ目のない子育て支援が大切である。
- ⑦松山にUターン・Iターンする人は、対象を限定せず、若者も高齢者も含め広く対象にすることが望ましい。
- ⑧地域での支え合いについて、こどもや高齢者、障がい者、主婦など様々な立場の人が誰かに対してできることを具体的に示すと分かりやすくなると思う。
- ⑨市民から意見が多かった「自然」を通して人がつながることや「観光客」との交流という観点も必要である。

(2)「まち」がつながる

全体

- ①「SETOUCHIの交流拠点」を打ち出すには、公共交通のターミナルが拠点となり線でつないでいくことや、まちとまちの回遊性を高めるための拠点づくりが必要である。
- ②都市機能が集まり賑わいのある市内中心部と、山間部や離島をはじめとした豊かな自然が広がる郊外など、松山市が持つ多様な地域の特性を生かし、まちとまちがつながることで、そこで暮らす市民や訪れる人々にとって魅力あるまちづくりが進むという視点が大切である。

個別

- ①豊かな自然環境を地域自ら保全することに加え、中山間地域や海、島といった地域資産が空港から比較的近いという立地を生かしく視点も必要である。
- ②生物多様性という観点から、人間同士だけでなく、生物同士がつながっていくことも伝えるため、「緑」だけでなく「川」についても記載することが必要である。
- ③安心・安全については、自然災害だけでなく、市民にとって身近な住環境や犯罪、交通事故に対する安全なども含む必要がある。
- ④自転車に関して、道後へ観光に来た人が石手川の周りや離島を巡るなど、松山の多様性を踏まえた活用についての視点が必要である。
- ⑤伝統文化や伝統行事、まつりなど、松山市の良さをこどもたちに残す必要がある。
- ⑥文化・スポーツ・芸術など様々な分野で夢や希望を持ち、自らを高めて目指していけるこどもたちや、選手が育つ土壌があることが大切である。
- ⑦俳句など松山ならではの文化や芸術などに言及することも大切である。
- ⑧SETOUCHIという視点は域内だけの視野では足りず、市内のまちとまちだけでなく、外に広がったまちと交流を進めて賑わいを生むという広域視点を含むことが大切である。
- ⑨時代の変化に応じた新たな取組を進めていくことも重要だが、一方で、変わらずに残る松山の良さと調和させ、次代につなげていくことも大切である。

(3)「仕事」がつながる

全体

- ①地域経済を活性化させるため、様々な産業が市内外で積極的に連携することが大切である。
- ②デジタル技術を導入したまちづくりを考える上で、人やモノに加え「情報」が集まることで安心して多様な働き方が実現できる。
- ③観光業や農林水産業をはじめ、サービス業や工業など、多様な産業に従事する市民自らが意識し行動できる方向性を示すことが大切である。
- ④今後、様々な産業が抱える人手不足に対応するため、女性や高齢者をはじめ、自分の仕事に関する専門知識やスキルを学びなおす「リカレント教育」が重要である。

個別

- ①企業や行政など、それぞれの主体が持つ課題に対して、自ら将来像を考え意識改革を促し、具体的な取組につなげることが必要である。
- ②女性や若者、高齢者をはじめ、障がい者、外国人など多様な労働者が活躍できる働き方や、ともに安心して働くことができる職場環境などを整えることが大切である。
- ③愛媛や松山で働きたいという若い人たちにとって魅力的な企業が増えることや労働環境の質を高めていくことが大切である。
- ④地域の観光振興のため、観光業だけでなく多様な関連産業と連携していくことが大切である。また、DXにより観光客に対する利便性の向上はもちろん、労働力不足という受入側の視点でDXを活用する観点も重要である。
- ⑤持続可能な観光のために、受け入れる側も観光客にも自然や文化など地域ならではの資源を守り、そして生かしていく視点が必要である。
- ⑥農林水産業に対し、行政が積極的にバックアップする姿勢を示すことが大切である。
- ⑦農林水産業が抱える後継者問題に対し、DXを伴う起業など都市部から幅広い人材確保に向けた積極的な情報発信が必要である。
- ⑧松山ならではの特産品を生かし、また、生産者の流通経路を手助けするなど、農業、水産業も含めた幅広いアピールが必要である。
- ⑨国内外の様々な地域から、特別なスキルを持った人材が松山で活躍できる拠点づくりを進めていくことが必要である。
- ⑩企業誘致により、新たなビジネスや産業、雇用の創出など地域経済を活性化させていくことが大切である。
- ⑪若者が起業などにチャレンジするときに、そのチャレンジを受け入れやすい組織づくり、地域づくりが大切である。
- ⑫働く場所を選ばずに、アーティストやデザイナー、建築家などのクリエイティブな仕事で活躍しやすいまちづくりをすることが大切である。

6. 総合計画の進行管理

- ①進行管理をする上で、外部環境の変化や予測の立たない時代であることを踏まえて、市民の人々の声も、PDCAサイクルに入れ、改善策を考えてもらうことが大切である。
- ②ウェルビーイングの観点で、施策を通して自分たちが幸せになっているか、いい効果が与えられ地域が良くなっているか、自分たちのこととして捉えてもらうため、市や外部の団体の評価に加えて、市民の視点が加わることは大切である。
- ③人口が減少する中で、財政状況などを考慮して優先すべき取組を精査することも重要である。